

ゼロスペック（多田満朗社長、札幌市中央区）はIOT（モノのインターネット）技術を活用し、灯油などの燃料配送の効率化を支援している。「高齢化や人手不足が進行する中、インフラとしての燃料供給網の維持に貢献していきたい。他の貨物の配送効率化にも応用できる」と話す多田社長（46）に、製品のメリットや今後の展望を聞いた。（朽木宗洋）

——製品の特徴を教えてください。
2020年に、屋外型灯油タンクの給油口に取り付けられるスマートセンサーと、自動発注配送管理シス

ゼロスペック社長 多田 満朗氏



テム「GONOW」を発売した。センサーは液面までの距離を基にタンク内の残量を測定し、遠隔で確認できる。GONOWは、こうしたデータや過去の給油履歴などを使って、最適な配送計画をAI（人工知能）で作成する。灯油のほか、液体燃料を扱う販売会社が多い顧客で、センサーの導入件数は全国で4万台ほど

燃料配送 IOT で支援

だ。23年8月にはセンサーをリニューアルし、計測精度を向上させた。

——開発のきっかけは。従来は、タンク内の灯油残量を確認するには実際に見に行くしかなく、効率化が課題だった。灯油の量を可視化し、最適な給油のタイミングが分かるようにす

る仕組みがあれば良いと考えた。ゴミ捨て場をセンサーで監視し、ごみがいっぱいになったら回収する、という海外で採られている手法も参考にした。

——前職での経験も開発の背景にある。会社設立前に勤務していたトリグループでは、未来を想像すること、数字に基づいて物事を決めることが重視されており、今も自分の指針になっている。「データがあれば将来に向けてより良い判断ができる

タンク内残量を遠隔監視

ようになる」という考え方が開発につながった。

——社会的な課題の解決も目指す。貢献していきたい。また、札幌市の二酸化炭素（CO₂）排出量の内訳を見ると、家庭の暖房用灯油が最大の割合を占める。無駄な配送を減らせれば、環境負荷の軽減に役立つ。



——燃料以外の配送にも利用できる。今後はGONOWのみの需要も取り込んでいきたい。特に、商品を定期的に配送するような場合に有効だ。在庫量をチェックしデータとして記録していくことで、最適な配送のタイミングを算出できる。属人化の解消や、DX（デジタルトランスフォーメーション）の促進を幅広く支援していく。

灯油の配送網は重要なインフラだが、高齢化や人手不足が進む中、維持するのは難しくなっていく。効率化を通じて存続に